

講義名	オ)日本史B			
担当教員	藤原 喜美子			
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 1時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

この講義の目的は、自時代の人々が生活していた日本の社会を読み取りながら、日本の歴史や文化の在り方を理解していくことにある。日本が現代の社会を迎えるまでには、様々な歴史の積み重ねがある。そこで、自時代を生きた人々がどのように社会を形成し、それぞれの歴史や文化を築いていたのか、時代ごとの特性を紹介しながら講義を進める。

到達目標

講義の内容を理解した上で、日本の歴史における政治や文化の特色を知り、興味のある時代について自らの言葉で説明できるようにする。

提出課題

1. 講義では、毎回、感想文や授業の確認内容などを記入し、小レポートとして提出してもらう。感想文のテーマは、授業ごとに伝える。
2. 小レポートとは別に、講義に関連した指定のテーマについて、レポートの提出を求める。レポート課題の詳細は、別途、6月の前半に、講義中の説明ならびにRYUKA portalの掲示を通して指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に授業などで、日本の歴史に関わる事例として紹介する。

評価の基準

評価は、平常点（各回の感想文や授業の確認内容を記した15回分の小レポート、60点）、レポート（40点）を総合して行う。
評価の基準は、第1回目の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。

履修にあたっての注意・助言他

1. 高校の『日本史B』の教科書は、よい参考図書になる。高校の時に使用していた教科書があれば、読んでほしい。どの出版社のものでもよい。また、書店によっては『日本史B』の教科書を販売している。
2. 予習として自分が調べた内容や大事だと思う箇所はメモをとること。
3. 講義中に私語をし、他人の学習の妨害をしないこと。教室内での私語など、受講態度が好ましくない者には退室を求めることがある。

教科書				
.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

<プリント資料>
各時間、プリント資料を配布する。
プリント資料は無くならないように保存すること。
<参考文献>
講義中に適宜紹介する。

授業計画

この講義は、「対面授業」と「オンデマンド授業」を並行して開講する。授業の進め方や評価方法の詳細は、前期の第1回目の授業で説明する。

1. 日本史とは
日本史そのものにとらえるか
2. 日本列島のはじまり
縄文文化・弥生文化
3. 各地域に出現した古墳
古墳文化
4. 飛鳥の朝廷
飛鳥文化
5. 律令国家の形成
白鳳文化
6. 平城京への遷都
天平文化と国家仏教の展開
7. 平安京への遷都
弘仁・貞観文化
8. 摂関政治と摂関家
風文化
9. 院政期の社会
院政期の文化
10. 平氏政権から源氏政権へ
鎌倉幕府の成立と鎌倉文化
11. 室町幕府の成立
室町文化
12. 織豊政権
徳山文化
13. 江戸幕府の成立
寛永期の文化
14. 都市の繁栄と町人文化
元禄文化・化世文化

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習
次回の授業範囲の準備学修として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、そのテーマについて興味のある事柄を1つ調べる。また、各回の講義の最後に、翌週の講義のキーワードを紹介するので、翌週までにキーワードなどの言葉の意味を調べておく（約2時間）。
復習
講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる感想文を出席カードに記入する。また、各自で、その日の講義の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

教養一般科目は、各学部学科の専門分野とは領域の異なる多様な科目を配置することで、広く、ときに深い教養を身につけて総合的な判断力や応用力を養うための科目群である。この科目では、日本の歴史における政治や文化の特色を知り、日本史の知識を身につける。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義は、板書・プリントを用いた講義の形式で進める。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。授業担当者は民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、日本の歴史や地域の特性を紹介しながら授業を行う。

備考

《受講生へのメッセージ》
この授業は、「対面授業」と「オンデマンド授業」を並行して開講する。授業の進め方の詳細は、前期の第1回目の授業で説明する。
教室では座席の間隔をあげ、教室の換気や手の消毒を助行し、感染症拡大の防止に努める。できずかぎり、教室で会うことができるように願っている。
対面授業の受講者が、万が一、一時的に通学困難になった場合は、「対面授業の中での対応（オンデマンド授業へ移動しない）」とさせていただきます。この時、授業の資料の配付や課題等の連絡は、個別にメール